

草月とその時代

1945
1970



勅使河原蒼風《樹獣》(部分)
1957年 草月美術館蔵

'98年12月5日[土] ↓ '99年1月10日[日]

■休館日 ●月曜日および12月28日(月)ー1月4日(月)
■時間 ●午前10時ー午後6時(入場は午後5時30分まで)
毎週金曜日は午後8時まで(入場は午後7時30分まで)
■ハローダイヤル 043-2227-8600

■入場料
一般 ●800円(640円)
大学・高校生 ●560円(450円)
中・小学生 ●240円(200円)

(内は団体30名以上および前売料金、入場料は消費税込み)
主催 ■千葉市美術館／朝日新聞社／草月とその時代実行委員会
協力 ■財団法人草月会 技術協力 ■日本ビクター株式会社

「関連企画」

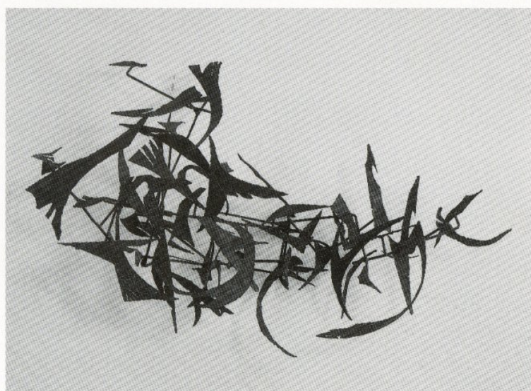
会場 ●千葉市美術館1階講堂 入場料 ●無料(ただし、観覧会チケットをご提示ください)

1960年代・映像の実験

- ①アニメーションの実験 12月6日(日)午後2時より
久里洋二 「2匹のサンマ」 1960年
柳原良平 「池田屋騒動」 1961年(VHS上映)
真鍋博 「時間」 1963年(VHS上映)
和田誠 「殺人ーマター」 1964年
横尾忠則 「堅々嶽夫婦教訓」 1965年
大井文雄 「伝説」 1967年
山田孝十・尾嘉男 「風雅の技法」 1967年
島村達雄 「透明人間」 1967年
- ②映像のアンダーグラウンド 12月13日(日)午後2時より
勅使河原宏 「ホゼー・トレス」 1969年
矢崎勝美 「女」 1967年
奥村昭夫 「猶予もしくは影を撫でる男」 1967年
松本俊夫 「つぶれかかった右眼のために」 1968年(VHS上映)
- ③個人映画の光茫 12月20日(日)午後2時より
大林宣彦 「EMOTION」伝説の午後、いつか見たドラキ」 1966-67年
桂宏平 「うたかたの恋」 1968年
中井恒夫 「パリュート」 1968年
原正孝 「おかしさに彩られた悲しみのパレード」 1968年



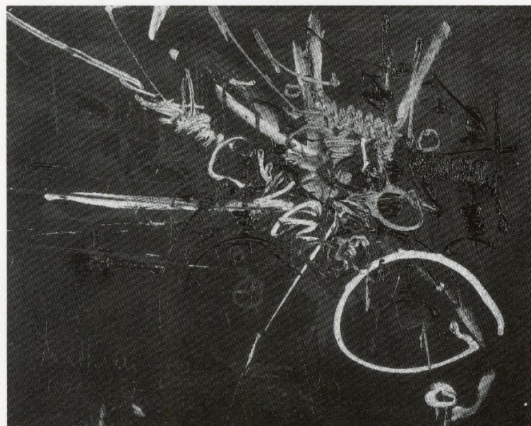
千葉市美術館



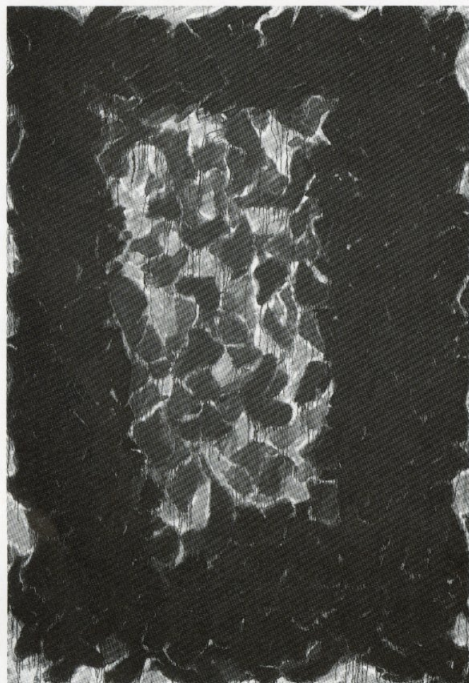
勅使河原蒼風《群れ》1953年 草月美術館蔵



勅使河原宏《サイレン島》1951年 草月美術館蔵



ジョルジュ・マチュ《無題》1957年 草月美術館蔵



サム・フランシス《ディープ・ブラック》1954年 財団法人出光美術館蔵
© Estate of Sam Francis / ARS, New York / SPDA, Tokyo, 1998

初代草月流家元である勅使河原蒼風(1900-79)と、その精神を引き継いだ現在の三代目家元、勅使河原宏(1927生)。ふたりはともに、それまでのいけばなの枠にとどまらない精力的な創作活動を展開し、多岐のジャンルにわたる当時の前衛的な芸術家たちと親交を結んでいます。本展覧会では、そのような幅広い交流を明らかにし、1945年から70年の間の戦後美術の軌跡を蒼風・宏とのかかわりから新たにとらえようとするために、次の三つの視点から「草月とその時代」に迫ります。

I. オブジェの時代

日本においてオブジェの概念が広まった時期は1930年代のことですが、50年代には、陶芸や勅使河原蒼風の新しいいけばなといった日本の伝統的な芸術が現代性を獲得するところみに「オブジェ」ということばが冠せられています。1945年から50年代までの日本美術の動向とその特徴について、伝統とモダニズムの間で揺れた「オブジェ」ということばを手がかりとして探ります。

II. アンフォルメル

勅使河原蒼風は、フランスの批評家ミシェル・タビエが1957年に来日したときから、彼の主唱する「アンフォルメル」の主要作家とみなされるようになりました。第二部では、ジョルジュ・マチュやサム・フランシスなどタビエが日本に紹介した海外のアンフォルメル作家と、タビエが来日以後発見した蒼風や、吉原治良を始めとする具体の作品、そして当時の映像、写真、印刷物などの展覧を通して、日本でのアンフォルメル受容を見直します。

II. 草月アートセンター

草月アートセンターは、「芸術文化発展のための交流の広場」として1958年に発足し、勅使河原宏が中心となって多彩な活動を開始しました。舞台となった旧草月会館地下ホールでは、モダン・ジャズ、現代音楽、実験映像、パフォーマンス、演劇など多様なジャンルの催しが繰り広げられ、60年代文化の一大発信基地となりました。第三部では、同センターに関わりの深い国内外作家の造形作品やポスター、パンフレット、映像などで多角的にその活動を検証します。



和田誠《ブルースの継承》1960年
財団法人草月会資料室蔵



奥村昭夫《猪矛もしくは影を撫でる男》1967年
イメージフォーラム配給

千葉市美術館

〒260-8733 千葉市中央区中央3-10-8
TEL 043-221-2311 (代)

◆JR東日本千葉駅をご利用の場合

- 東口より徒歩約15分
- 京成バス大学病院行(のりば⑦)「大和橋」下車徒歩2分
- 京成バス矢作台市営住宅・川戸行(のりば⑦)または小湊バス八幡宿行(のりば④)「広小路」下車徒歩1分
- 無料巡回シャトルバス・チーバス(のりば⑩)
「中央区役所・美術館前」下車
11:00-18:00の毎時05分と35分に発車(水曜日運休)

◆京成電鉄千葉中央駅をご利用の場合

- 東口より徒歩約10分

*来館者用駐車場は少ないので、自家用車で来館はご遠慮ください。

【次回予告】

千葉市美術館所蔵作品展(仮称)
1999年1月16日(土) - 2月14日(日)

